

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業	28年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 企画担当課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	コンテナターミナル管理運営体制の見直し	継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7969
目的	対象(誰・何を)	名古屋港のコンテナターミナル			事業期間	～平成29年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	管理運営を効率化します。				
概要	名古屋港のコンテナターミナルの管理運営の効率化を図るため、港湾運営会社制度の導入を行い、管理運営体制の見直しを行うとともに、伊勢湾で一つの港湾運営会社による一体的運営に向けた検討を行います。				根拠法令等	港湾法、会社法
29年度の実施予定	名古屋港及び四日市港は、両港の特例港湾運営会社の特性を踏まえ、平成29年が期限となる伊勢湾で一つの港湾運営会社の実現に向けて、関係者との打ち合わせを実施します。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

29年度に実施した内容・結果	名古屋港及び四日市港は、両港の特例港湾運営会社の特性を踏まえ、伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向け、設立時期、取締役の人数、民間出資等について、関係者と綿密に打ち合わせを行い、5月17日に港湾運営会社の指定に向けた会社を新たに設立しました。その会社は、9月1日に国土交通大臣から港湾運営会社の指定を受け、同日、名古屋港と四日市港のコンテナターミナルの運営を開始しました。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	21,406	21,502	9,190	17,366	
合計	千円	21,406	21,502	9,190	17,366	

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	最終目標	29	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
伊勢湾における港湾運営会社の業務開始に向けた検討会議の回数(全8回) (進行管理型)	目標	4	6	8	8(累計)		伊勢湾における港湾運営会社の業務開始に向けた検討会議の回数として、四日市港関係者との実務者会議の回数を設定	
	実績	4	7	26				
	事業進捗状況(29年度)			順調 やや遅れ・遅れ				
	目標							
	実績							
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		関係者と十分な検討を実施した結果、港湾運営会社の指定に向けた会社(名古屋四日市国際港湾株式会社)を新たに設立し、同社が伊勢湾の港湾運営会社の指定を受けることで、名古屋港と四日市港のコンテナターミナルの一体的運営が開始され、名古屋港のコンテナターミナルの管理運営の効率化が実現しました。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	港湾法改正に対応し、利用者の利便性向上を目指す事務事業として、港湾管理者である名古屋港管理組合が関与し、進めていく必要があります。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	名古屋港のコンテナターミナルの管理運営を効率化することは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」につながると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	事務の実施は、最小限の人員体制で行っております。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
完了			名古屋港及び四日市港は、伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けて、関係者と打合せを行い、5月17日に会社を新たに設立した。9月1日に国土交通大臣から港湾運営会社の指定を受け、同日、名古屋港と四日市港のコンテナターミナルの運営を開始したため。
課題	30年度以降の取組		